

ワシントン条約の概要

1 名称

絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（略称 CITES）
 (Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora)

2 目的

野生動植物の国際取引の規制を輸出国と輸入国とが協力して実施することにより、採取・捕獲を抑制して絶滅のおそれのある野生動植物の保護を図る。

3 経緯

- ・昭和 50 年 7 月発効（昭和 48 年 3 月、ワシントンにおいて採択）
- ・我が国は昭和 55 年に加盟
- ・締約国は、182 の国及び欧州連合（EU）（令和 2 年 11 月現在）

4 附属書への掲載基準及び規制内容

	附属書 I	附属書 II	附属書 III
掲載基準	絶滅のおそれのある種で、取引により影響を受けるもの	現在は、必ずしも絶滅のおそれはないが取引を嚴重に規制しなければ絶滅のおそれのある種となりうるもの	締約国が自国内の保護のため、他の締約国の協力を必要とするもの
規制の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・商業目的のための国際取引を禁止 ・学術目的（繁殖目的を含む）の取引は可能だが、輸出国、輸入国双方の政府の発行する許可書が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業目的の国際取引も可能 ・輸出国政府の発行する輸出許可書等が必要（附属書 III の輸出であって指定国以外を原産地とする場合は原産地証明が必要） 	

5 条約実施のための体制

- ・条約締約国は、輸出入管理を担当する管理当局及び輸出入に際して管理当局への助言等を行う科学当局を設置することとなっている。

管理当局：経済産業省（輸出入規制）

農林水産省（海からの持込み）

科学当局：環境省・農林水産省